



No.351
今井公民館
館報編集委員会
電話 59-2001
FAX 59-1004

今井 年末年始の風習

明けましておめでとございます。
コロナ禍で迎える年末年始は、例年の風景を一変させたのではないのでしょうか。
そこで今回は、今井地区誌他に記録された昭和の時代の年末年始の行事や各家庭の様子について特集します。

松迎え

12月30日までに松飾りをする。31日に飾るのを一夜松・日切り松などといっており、大かたの家では30日にする。昭和初期には、「30日は何もするな」という家もあり31日に行っていた。松は三段・五段・七段と奇数のものを選ぶ。



▲松飾り (今井地区福祉ひろば、令和3年撮影)

餅つき

12月28日か30日に行い、29日は苦餅といってつかない。

お年取り

年取り魚は鯛であるが、鮭もある。早く寝ると年が寄るといっておそくまで起きて、晦日そばをたべてから二年参りする。



▲二年参り (宝輪寺、平成24年撮影)

元旦の朝食

雑煮にする家が多く、とろろ汁にする家もある。

七草

7日の朝七草を入れた粥を煮て神仏や門松に供える。

松納め

7日に七草粥を供えてから取り外す。外飾りだけを取り、内飾りは15日に取る。

鏡開き

11日にお供えをさげて雑煮をこしらえ、神仏にあげる。

小正月

若年ともいう。13日に餅つきをして、お供えを年神様に供える。米の粉でまゆ玉を作り、柳の枝にさして飾る。

三九郎

小正月の道祖神祭りの一つ。現在は鳥追いの行事と一緒にに行われ、正月の松飾りやわらを各家から集め、切り出してきた神木とで道祖神の前

などに三九郎の塔を作り、以前は15日の晩に焚かれた。また三九郎の火でまゆ玉を焼いて食べると虫歯にならないという習わしがある。
男の子だけの祭行事であったものが、昭和37年頃から女の子も仲間入りし、それ以来PTAが指導を行い小学生の男女児童によって行われるようになった。

令和2年から令和3年へ「一年参り」の様子

新型コロナウイルスの影響により、今井地区でも静かな年末年始となりました。例年と異なる二年参りの様子を記録しました。



▲宝輪寺
恒例の年越し蕎麦のふるまいは中止となりました。



▲兼平神社



▲諏訪神社
下今井太鼓連による初打ちの奉納は例年通り行われました。



▲諏訪神社



▲正覚院



▲三九郎 (古池町会、平成24年撮影)

まゆ玉作り

1月8日(金) 福祉ひろばにて、りんごサークルの親子6組が松本地方の伝統行事である三九郎のまゆ玉作りを行いました。

コロナ禍で不安の中でしたが、しっかりと感染対策をしながら、赤、緑、黄色等の色づけをした団子を、親子でこねたりのばしたりして、まゆ玉や個性あふれる形にしてみました。

子どもたちはまゆ玉作りに満足すると、友だちとの遊びに夢中。時には大声で泣く子、元気よくかけまわる子、様々です。そんな様子も含めて、親御さんには子育てを楽しんでほしいと思いました。

その後、まゆ玉できれいに飾った柳の枝を持ち、集合写真を撮影。みんな笑顔で写真に収まりました。



次の世代を担う子どもたちにぜひ伝統行事である『三九郎』と『まゆ玉』作りを続けてほしいと思います。

子ども会育成会 餅つき大会&正月の遊び

1月5日(火)、子ども会育成会の餅つき大会が行われ、17名の子どもが参加しました。

子どもたちが重たい杵に悪戦苦闘しながらも、べったんとい音響くと、周りの大人たちから「うまいぞ!」「よいしょ!」と声があがりました。育成会の協力員さんにお餅をまるめてもらう間、小学校の校庭に移動し、凧あげをしました。なかなかいい風が吹いてこなくても、子どもたちはお構いなし。校庭中を思いつき走り回り、上手に凧をあげていました。



例年みんな一緒に食べるお餅は、新型コロナウイルス対策として持ち帰りイルス対策として早く日常に戻すことを願うばかりですが、子どもたちの元気な姿を見るのができ、よい一年の幕開けとなりました。

第34回今井ナイターソフトボールリーグ閉幕

- ★優勝 北耕地
- ★準優勝 下新田
- ★第3位 西耕地(6チーム参加)



つがやま No.282 「転職」 賀彦 大槻 (東耕地)



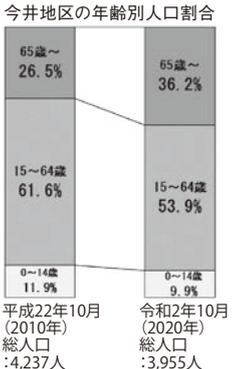
年号が平成から令和に変わる年に、それまで勤めていた職場を辞めて実家の農業に転職した。きっかけは、父が他界し、母が一人ぼっちの生活になってしまったから。母も七十五歳を過ぎ、膝が曲がらず、ペ

ンギンのような歩き方をしていいるが、今のところ、それ以外は問題ない日常生活を送っている。しかし、高齢の一人暮らしは何かあるか分からない不安があった。また、以前の職場では通勤時間が長たり勤務時間が長いままでは仕事に追われて何もできないと思いい、退職を決意した。一緒にそばにいて感じるの

は、昔からの付き合いでつながっている地域の皆さんに支えられていることが心強く、人の思いやりと温かさに、感謝の日々を過ごしている。新たな年号がスタートするタイミングに合わせて、新たな出発点、第二の人生の始まりと感じ、就農を決意した。幼少の頃、親の手伝いをしてながら、「こんなきつい仕事は嫌だ」と避けていたが、自然の恵みと厳しさを直接感じられる農業を楽しんでいる。

今井地区の人口

(令和3年1月1日現在) (対比 令和2年1月) 世帯数 一、五九五戸 (前年比 十六戸増) 人口 三、九一八人 (前年比 三十七人減) 男性 一、八九三人 (前年比 十二人減) 女性 二、〇二五人 (前年比 二十五人減) 今年の新成人者数 三十八人 (市外転出者含む)



「北風南風」セブン・セブン・セブン・セブン……今から約50年前、少年はテレビの前に正座をしていた。夜7時はNHKのニュースと決まっていたが、日曜日は特別だった▼前年に始まった「ウルトラマン」は、古代や宇宙からやってきて暴れ、街を破壊する怪物をやっつけるという、勧善懲悪的な怪物ドラマだった。それに対して、「ウルトラセブン」は、人間の心の闇や弱さ、人間同士の攻撃性、人間の行き過ぎた科学技術による地球や宇宙の破壊など、子ども向けの番組としては、難しいテーマを取り扱っていた▼現在、NHKのBS4Kでデジタルリマスター処理を施したフィルムを使って再放送されている。ウルトラセブンの体のツヤや光線、夕焼けに染まる街並みや宇宙空間で瞬く星々ひとつひとつが鮮やかな色でよみがえっている▼飛行機をつっている糸が見えたり、家並みのミニチュアがいかにも作り物に見えたりするが、当時の撮影技術に感心させられる。50年後、「鬼滅の刃」を見ている今の少年少女は、作品をどのように思い出すだろうか。(K・N)